

8-4-4 業務体系WG

1. 主な活動の記録

(1) 活動目標

建設コンサルタントの事業領域のうち、主として、社会資本の建設事業や維持管理・更新事業における建設コンサルタントの役割について、建設コンサルタンツ協会としての基本的な考え方について検討する。

検討成果として、建設コンサルタントの役割に関する基本的な考え方が明確化されることにより、建設コンサルタンツ協会として、様々な発注者、施工者との協議において、一貫性のある意見を発信することが可能になることが期待される。

検討内容としては、平成28年度「要望と提案」に盛り込まれた「修繕工事の技術的課題に対応した入札契約制度の参考例」、「修繕工事」の入札契約方式比較表（案）、さらに「新設工事」の入札契約方式比較表（案）を基本として、各入札契約方針における特性の整理、検討を行う。具体的には、調査・計画、概略・予備設計、詳細設計、施工といった各段階における役割分担、さらに発注者を補完する役割、各入札契約方式のメリット、デメリットとしての品質、生産性の評価内容の妥当性等について検討する。

2. 実績報告

(1) 報告書の「共有・行動」の推進

令和4年度に作成した「今後の橋梁保全事業のあり方に関する懇談会報告書 令和5年1月」について、令和5年度に各地方整備局と「共有」及び「行動」を進めるべく、(一社)日本橋梁建設協会（以下、橋建協）と協働で、地方整備局との懇談会開催のための各支部への事前説明、地整への意見交換会事前説明を実施した。

- ・橋梁修繕事業における具体的な課題および設計・施工者の連携による課題解決の検討
- ・鋼橋においては橋建協との共同勉強会を実施し、双方の課題と連携による課題解決に向けた調達制度を検討

- ・事業や業務特性等に応じた設計の受注者が工事段階で関与する方式(R-1方式)、工事の受注者が設計段階から関与する方式(R-2方式)を整理

(2) 国総研との意見交換会の開催

「今後の橋梁保全事業のあり方に関する懇談会報告書」の共有及び新たな知見等を伺うため意見交換会を橋建協と協働で開催した。意見交換会での国総研の主な内容は以下の通りである。

- ・契約方式の「R-2方式」は現時点でも適用されているが、「R-1方式」については課題が多く、契約方式としてはハードルが高い。
- ・見積体系については、発注者側で見積内容が確認できないことが課題と認識している。

上記意見から、両協会は、「R-1方式」の課題となる随契方法については別途適する方法を思考することとした。

3. その他報告事項

(1) 建コン協四国支部との協働

今後地整との協議を円滑に進めるためには支部との連携・協働が必要となる。令和6年度は四国支部に対して地整協議への参加・協力を依頼し、承諾された。

4. 次年度の活動について

- ・橋梁保全事業における調査、設計及び施工の契約方式のあり方
- ・事業特性等に応じた多様な入札契約方式における建設コンサルタントの役割、関与のあり方

上記2つの個別課題について、建設コンサルタントの設計者としての役割、関与のあり方、契約方式について、各地整との意見交換会を実施して検討事項の「共有・行動」を図り、継続して「あり方」についての検討、提案を行う。

また、設計者と施工者の連携による契約方式に関しても引き続き両協会（橋建協、PC建協）と具体的な課題について検討を行う。

（業務体系WG WG長 石村 佳之）